



遠藤 一郎 Endo Ichiro | 静岡県

「カッパ師匠の山なみ物語」

カッパ師匠!!!! つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、ついに、、ヤマナミに、、、



飯田 将茂 Iida Masashige | 茨城県

「アブダクション」

人為的なものであれ自然のものであれ、あらゆる事象は決して一つでは存在せず、場所や時代を隔ててもその問題の本質には繋がりがあ、と感じる今日この頃です。それらを繋いでいく作業はさながら考古学者のようですし、びたっと繋がった瞬間の歓びは格別な興奮としてジェットスターの機内であっても一人で発狂しかねません。なるべく冷静を保ち、いくつかのヒントを開示しながら推理小説家のようにそれらを提示していく、そんな作業を綾川の豊かな自然にまみれて行いたいと思います。



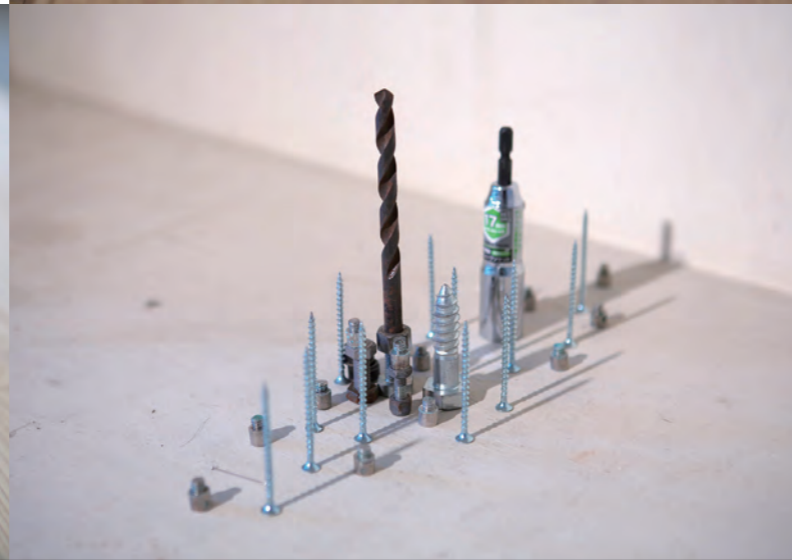




祐源 紘史 Yugen Hirofumi | 広島県

### 「世界のいれもの」

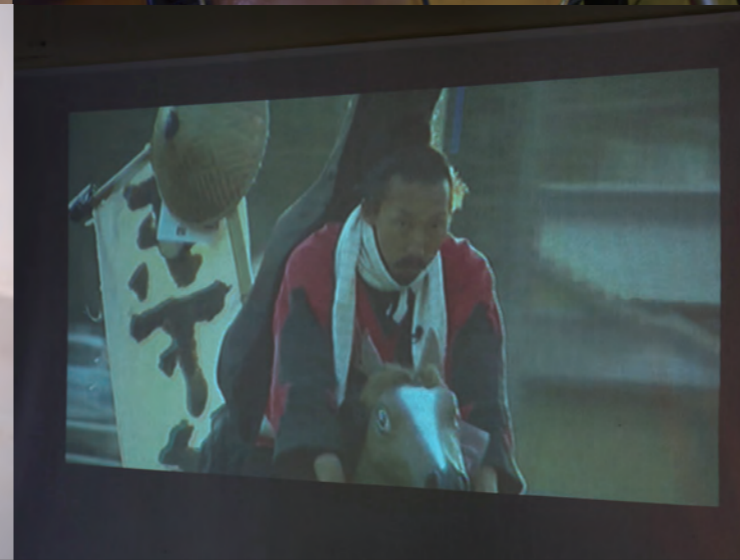
身近な素材にキャラクターなどの具体的な形や意味を与えて再構成し、その場所にもつわるインスタレーションへと発展させた作風を得意とする。近年では、鶏の骨などの残骸を使用して、食に言及した作品を発表している。



天歌布武 信長 Tenkafubu Nobunaga | 東京都

### 「天下統一プロジェクト 香川編」

「天下統一プロジェクト」とは、47都道府県の歌を作る為に馬【自転車】に乗り、旅をしながら観光、出会い、その県にふさわしい歌を独断で作る。そして、GPSを利用し各都道府県をキャンパスがわりに【織田信長の顔】を描く。これがこの土地で歌を作った目に観える証。全国47つの歌と顔が完成させた暁には「天下統一」達成というプロジェクト。2015年の時点で埼玉、茨城、群馬、秋田、広島、山梨の6つを統一。2016年3月から天下統一プロジェクト香川編、出陣!自転車(馬)で移動しながら、香川県の全体エリアを使って【織田信長の顔】をGPSで描き、香川県のテーマソングを制作!







田村 香織 Tamura Kaori | 千葉県

「HAReGI in AYAGAWA」

2009年筑波大学芸術専門学群構成専攻卒業  
企業パタンナー勤務と並行して衣装制作を続け、  
関わったダンス作品が国内外多数のコンペティショ  
ンで優勝、招聘される。

2014年写真家の浅見俊哉とアーティストユニット  
SeeSewを結成  
2016年HAReGIとして独立し、身体とその動き、  
空間に深く関わる衣服を制作している。



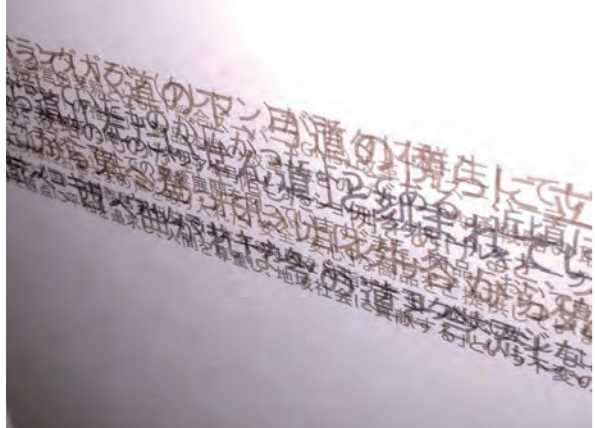
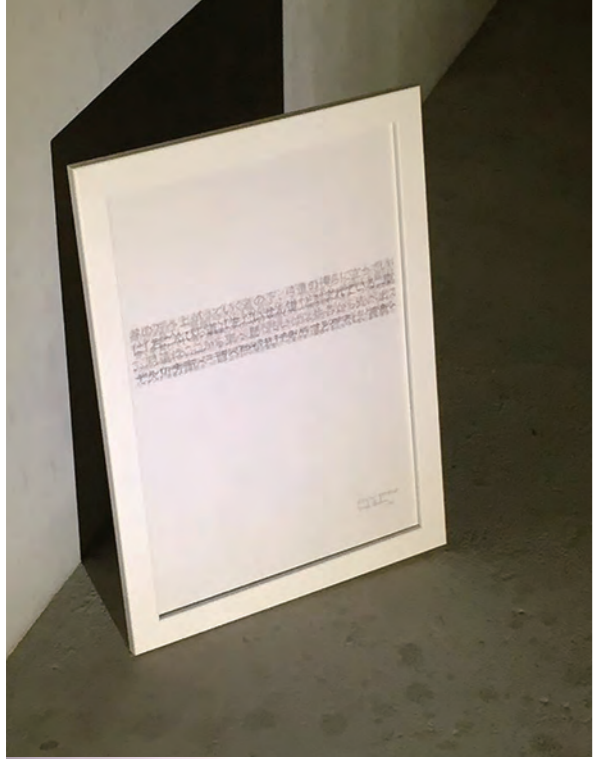
いしかわ ゆか Ishikawa Yuka | 愛知県

「時間を見る」

土地、町、建物、部屋、人間。日常と非日常の交差と、その連続。そこに流  
れるのは、速さも深さも密度も違ったあらゆる「時間」。「不可視を可視  
化する」というコンセプトの元、綾川町エリアにある作家滞在用のゲスト  
ルームの一角を使用して、その時間と経年変化を切り絵作品等で表現し  
ます。







奥平 聡 Okudaira Satoshi | 東京都

「群像大河」

今回はキュレーターの浅見氏がテーマとして掲げる「対話」の現状を、地域の皆様の声を使って表現したいと考えています。私自身も作品作りを通して、地域の人々や歴史と「対話」できればと思います。



熊谷 薫 Kumagai Kaoru | 東京都

「アーカイブプロジェクト：綾川の物語を編む」

現在、様々な芸術祭がある。それぞれ、固有のメッセージや価値があるが、伝えるのは難しい。アートに関わる作家や地域の人たちが織りなす、毎日の小さな物語こそが、活動を差異化し、豊かにする。どうしたらそれを残して、伝えることが出来るだろうか。いくつかの現場で実践してきたアーカイブや記録の手法を用いつつ、有機的な形で実践してみたい。







浅沼 将 Asanuma Susumu | 埼玉県

「Life is Art」

“作品”だけでなく、“人”も知ってもらうために、至る所でビデオをまわして、アーティストの素顔を撮影したいです。いかにビデオがまわっていることを日常的にするかが勝負です！



峰崎 真弥 Minesaki Maya | 広島県

「ギャラリーマヤカワ 2016」

いつも以上にワクワクする一方でドキドキ畏れの気持ちも感じています。それは、この度のテーマを、「自分自身の中に眠る果てしなく深い底なし沼への導き」の様に感じているからかもしれません。「今との対話」を通してどこまで自分自信の言語を掘り起こせるだろうか、、、愉しみたいと思います。







鈴木 のぞみ Suzuki Nozomi | 埼玉県

### 「光の独白」

日常の事物に潜む記憶の可視化を、写真術を通して試みている。写真を定着された事日常の事物に潜む記憶の可視化を、写真術を通して試みている。写真を定着された事物は、触れられる身体を与えられた写真へと変容する。それは、写真に暗示される時の過ぎ去りの予感を事物の持つ現在性によって現在(いま)に引き戻し、去りゆく時を永遠に遅延させることを可能にするのではないか。私たちのまわりに満ち溢れている光の潜像や過去の光を事物にとどめ置き、いまを生きる私たちの眼差しによって見つめ返したい。

みのちよく Minochock | 東京都

### 「消される痕跡」

今かがわ・山なみ芸術祭に、再び参加させて頂けて嬉しいです。前回より良きものを制作出来る様、頑張ります。私は大学の卒業制作で「自己の記憶」に関する作品を制作して以来、現在もそれをテーマに制作を続けています。自分の過去の記憶・散らばった周りの事象・関った人の記憶、それらを再構成する様な作品です。モチーフは私個人の記憶の集積からなるものですが、見る人の記憶に引っかかり、眠っていたものを呼び起こす「何か」を内包する様な作品になればと思い、制作しています。「みのちよく」は高校時代に友人につけられたあだ名です。語感が面白くて使っています。







山田 はじめ Yamada Hajime | 広島県

「DRAWING」

今を見つめるとは、先入観や想像に左右されず、目の前のことを真摯にじっくりと観ることで大切なことに気付いていく営みだと思っています。私の作品がそのきっかけになれば幸いです。



浅見 俊哉 Asami Shunya | 埼玉県

「Sunlight Flag -AYAGAWA-」

今回、「かがわ・山なみ芸術祭2016-綾川町エリア」の象徴となるような旗を写真の古典技法サイアノタイプを用いて制作した。メイン会場のモノハウスにあるシンボルツリー、メタセコイアの時間を直接太陽光で焼き付けた。中央に種子の入った球果を両手で包むように雄花、葉枝を配置した。綾川町が、アーティストと地域の方々、そして鑑賞者を包み、芸術を共に育てていく土地であり続けることを願い、綾川町の風に『Sunlight Flag-AYAGAWA-』をはためかせる。







小玉 一徳 + 桑原 宏明  
Kodama Kazunori + Kuwahara Hiroaki | 大阪府

「あなたの学校」

廃校内に小さな憩いの場をつくります。教室のような、校舎のような、喫茶店のような、東屋のような、なんでもないような、そんな場をとどけます。あそびに来てください。



矢野 愛恵 Yano Manaе | 徳島県

「聖 火」

香川大学アートプロジェクトチーム「YAMANOKAMI」の代表を務めています。学部の中から、陶による装飾的なオブジェ制作に取り組んできました。今回は土と火を通して、作品・地域・人が結びつくような作品にしていきたいと思っています。







女の子には内緒 Onnanoko niha naisyo | 東京都

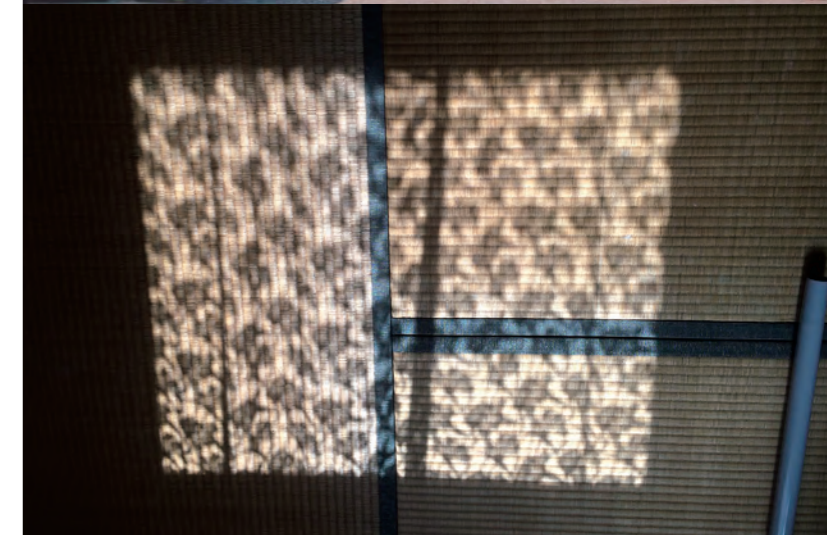
「春をゆるして」

何気ない日常の中に潜む物語を構成し、「この街にいるかもしれない」市井の人々を描きながら、分かりえない他者との気づきや繋がりを探している。劇場内だけでなく、街や日々の暮らしの中に息づいている物語／演劇的なものを掘り上げ、繋げる、野外作品も製作する。フィクションと現実を行き来しながら体験する、この場所だから強度を持つ作品となりそうです。物語を通して、鑑賞者の皆さんと素敵なコミュニケーションできれば嬉しいです。

旅する服屋さんメイドイン  
Tabisuru Fukuyasan MADE IN | 東京都

「Made in Ayagawa」

車にミシンや植物で色を染める為の染色道具を積み日本各地を旅しながら、その地その時でしか出来ないモノやコトづくりを模索しながら活動。出会った事や人にインスピレーションを得て服を縫い各地でお店を開いたり祭をつくりながら国内外を旅して生活を続ける。







香川大学アートプロジェクトチーム「YAMANOKAMI」  
KAGAWA UNIVERSITY Art Project team [ YAMANOKAMI ] | 香川県

「UDON うどん」

YAMANOKAMI  
代表：矢野 愛恵 / アドバイザー：倉石 文雄  
神高 綾乃 / 井下 智香子 / 佐藤 明香里

藤本 絢子 Fujimoto Ayako | 神奈川県

「Life Leaf River」

その土地の風土や人々の営みに触れ、その時そこでしか  
作れないものを作りたい。







鉦井 喬 Hoko Takashi | 福島県

「Dialogue」

学生の頃鳥人間コンテストに参加し、人力飛行機のパイロットとして空を飛ぶ。わずかな風に巨大な機体が翻弄された体験から風で動く作品を作り始める。今は彫刻を山や海の自然界に持ち出して、フィールドに吹く風を彫刻を通して映像記録するなど、彫刻と映像の融合を図る。昔、綾川の人々は丹念に山を手入れしていたそうだ。広がっていた松林の下に「まったけ」が生えるから。自然と共生する生活をしてきた。今は人が町へ出て、手入れする人が減り山も荒れたが、人々は農業の大規模化を避け棚田など自然と共存する美しい風景を守っている。



モーメント小平 Moment Kodaira | 東京都

「生きるためにやったこと」

東京都小平市で結成。メンバーは流動的。東京都小平市から香川県綾川郡までリアカーを引いて徒歩で向かう。出発の際、金銭は持たず、行く先々の地で路上表現を行いその対価をメンバーで分け合うことで生命活動を維持する。ここでは地方芸術祭での、地域の人とアーティストの関係を「定住民と漂泊芸能者」と捉えることとし、参加するメンバーは40日強の時間をかけ700km弱の道のりを行く最中、生命維持のための路上表現を繰り返し定住民から対価を貰うことで“漂泊芸能者”としての生活を追体験する。「定住民と漂泊芸能者」という視座で古今東西の事例を参照し、また漂泊芸能者としての生活を実践、その記録やリアカーなど残った作品を展示することで、現代日本における地方芸術祭の意義を問い直す。







大場 さやか Ohba Sayaka | 東京都

「家のかたち、家の記憶」

自分がまだ見ぬ土地で、木や人や家が、自分が  
 生き始める前からたった今でも在り続けている  
 状態について、その存否への疑いがいつもあ  
 る。また同時に、それら全てが自身を存在させ  
 る要因になっているようにも感じる。存在対象  
 物を取り囲む無限が、その対象物の存在要素と  
 なり、対象物もまた別の存在因の一部となる。  
 人もものも作品も、単体としての存在はなく、常  
 に何か他のもの、土地、空間と接し、形をくり  
 抜くネガの部分の要素により、形あるポジの部  
 分が存在しうるものと成す。ここ綾川町は初め  
 ての土地。この土地が持つ経験と時間の厚  
 み、蓄積された記憶に触れることで、土地に人  
 に作品に、新たな存在の仕方が始まる。その存  
 在の一部になるものを残し、その場所で、空間  
 で、存在し始めるものを見てみたい。



町田 紗記 Machida Saki | 東京都

「だれもがしゃべりたがっている」

しょくぶつとどうぶつとにんげんと、輪郭はとけあってつなが  
 っている。あれはじぶんだろうか、あのこだろうか、それとも山だ  
 ろうか。ただ、自分の身体に通じる感覚さえあればいいのです。  
 自分の身体がなにでできているか、覚えていて。







中打 正雄 Nakauchi Masao | 香川県

「此処は粉所一春の風」

里山に吹き渡るやさしい春の風に包まれて道端には春を告げるタンポポやレンゲの花。付近の棚田は田植えの真っ只中、トラクターや田植え機のエンジン音が周りの山々にこだまする。このような自然の風景を借景として、吹き抜ける風に力を借りる「此処は粉所一春の風」は周りの自然と作品共に楽しんで欲しい。そんな願いを込め作り上げた作品です。

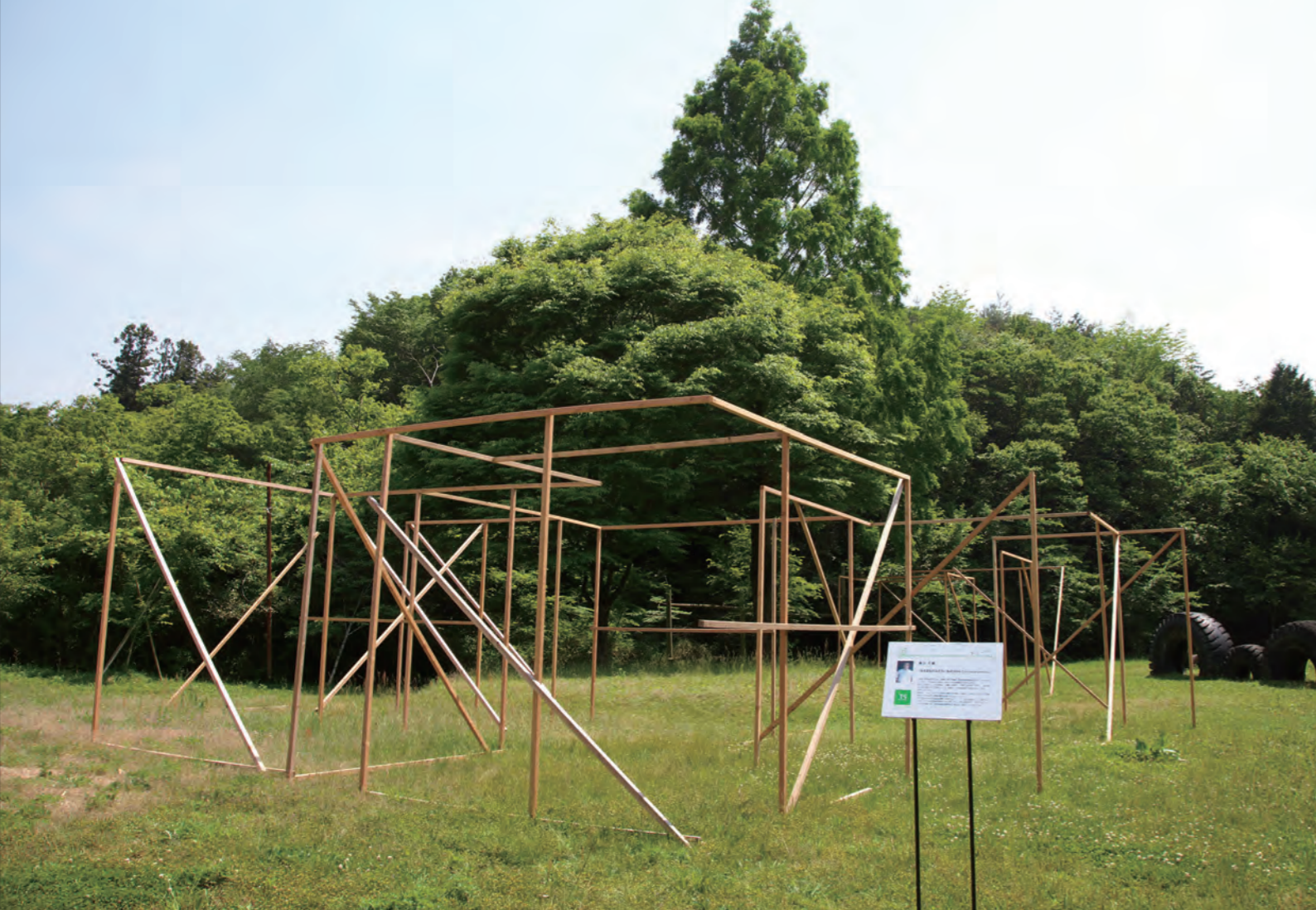


don. don. | 香川県

「増殖する渦」

ひとつひとつ手で描く渦のドローイングは、自己の悩みや混沌とした感情を可視化させたもの。渦を描くことで、溢れ出る感情に押し潰されず自己を保つ事ができる。消えない悩み達を描き続ける事が、私の人生を続けていく上で必要な行為なのだと思う。

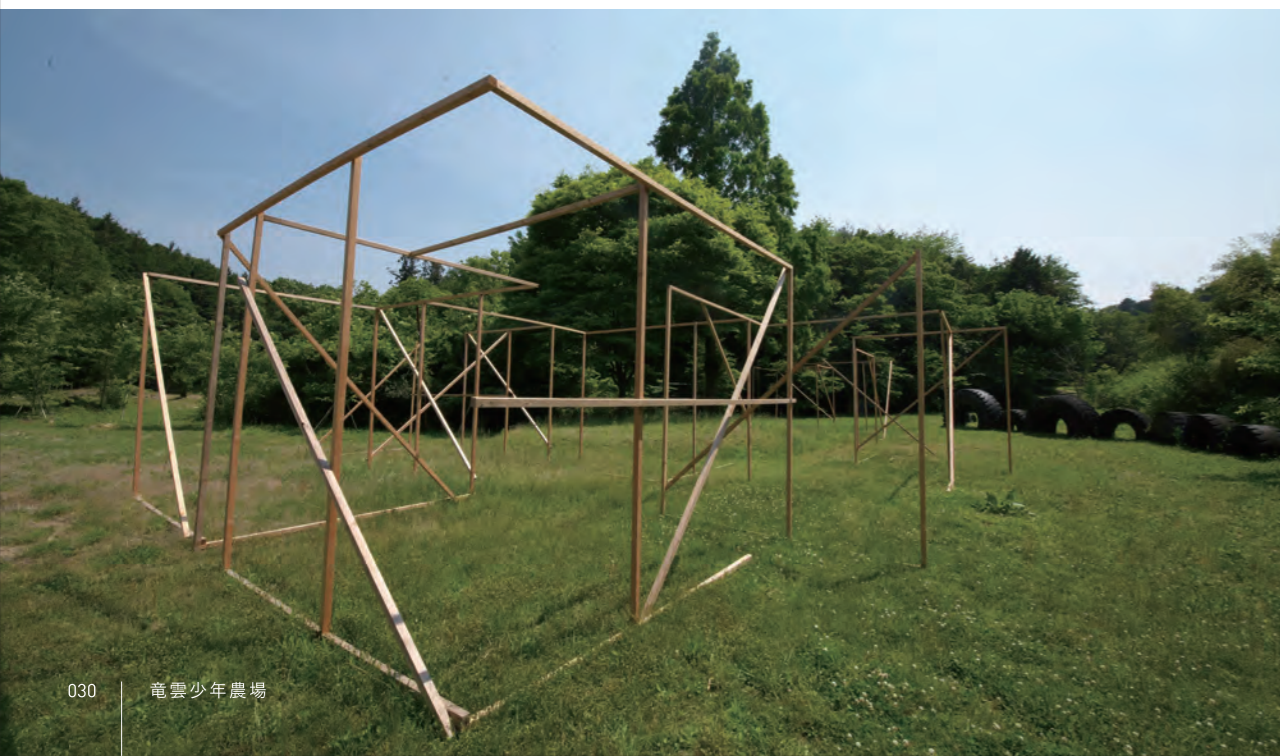




倉石 文雄 Kuraishi Fumio | 香川県

「みえるものみえないもの 2016-2 (かたちのまえのかたち)」

運営側としては、アーティストが自由に表現できる環境と、地域の人々が楽しく自分の人生に意義を感じながら生活できる環境の融合を目指したいと考えている。しかし作品は初めから社会性を意識して制作するより、ごくごく私的な課題をとことん追求することでも、そこには必ず社会性が現れていると考えており、今回は賛助作家として参加するが、とことん自己の内面にある、私的な創造性や感性を引っ張り出して制作したいと考えている。



栗原 かおり Kurihara Kaori | 群馬県

「対話の可能性」

風、水、火、時、それから人の流れ。移ろい、拡がりのなかで、いつのまにか何かにさわって、かため、動かしてゆく、わたしの手の痕、足の跡。拡がり、かたまり。ふれあうところが交感してる。



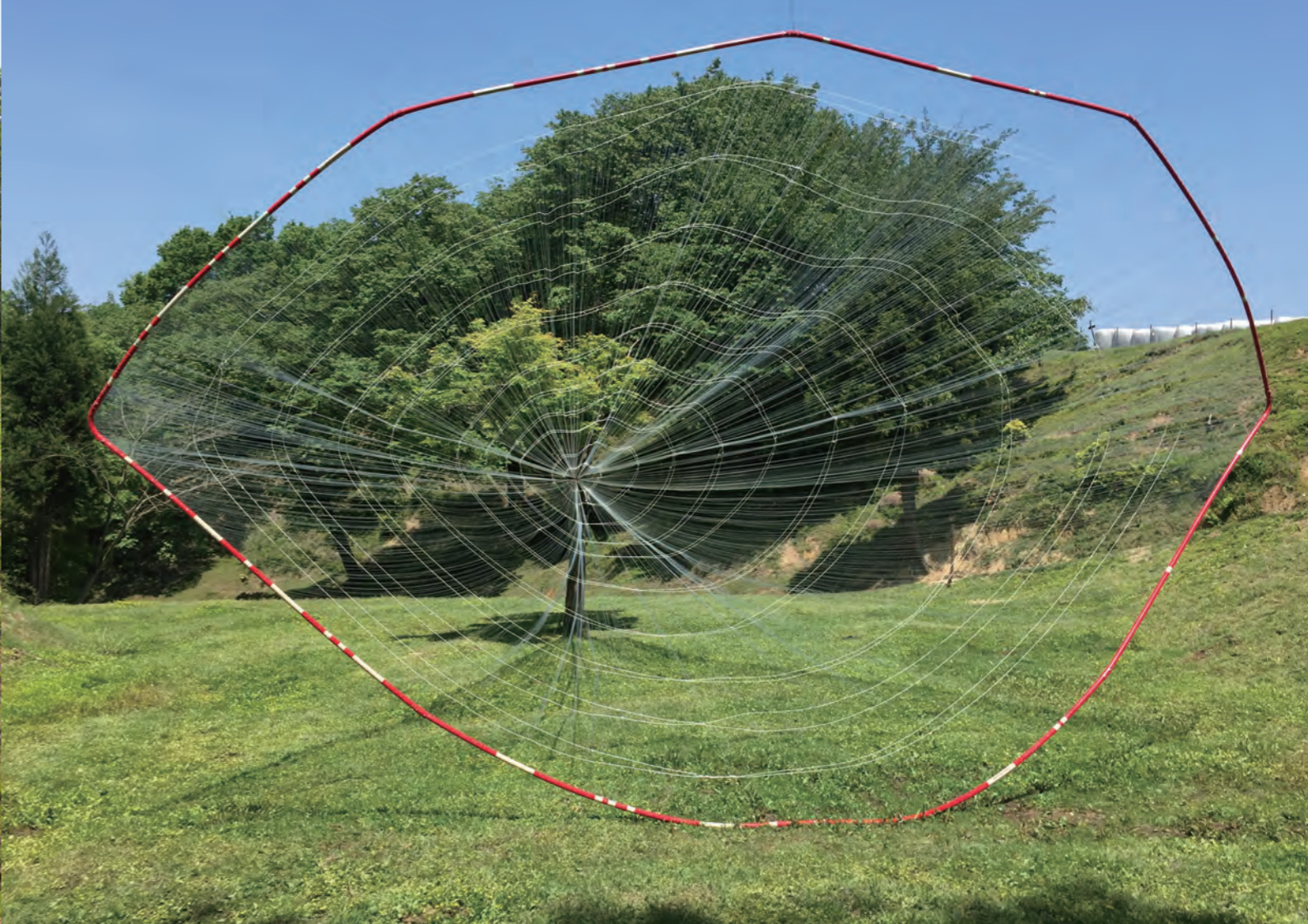




半谷 学 Hangai Manabu | 北海道

「風の龍：おとこ神とおんな神」

アニミズム（物活論）に関心があり、作品を設置する土地に存在する「見えない万物の精力」を視覚化する方法を模索しています。その風土に作品を晒すことで、古から今まで続いている神の気配が入り、その前に立つ人と言葉を発しない対話が始まると信じています。心の対話はきっとその地に暮らす人の日々の営みの美しさを伝えてくれるはずです。綾川町竜雲少年農場に設置する作品「風の龍」はそんな機会をもたらすことができるものでありたいと願っています。



竹田 信平 Takeda Sinpei | 東京都

「色のない時間の隙間」

